

栗きんとんの加工に適するクリ新品種 「えな宝来」、「えな宝月」

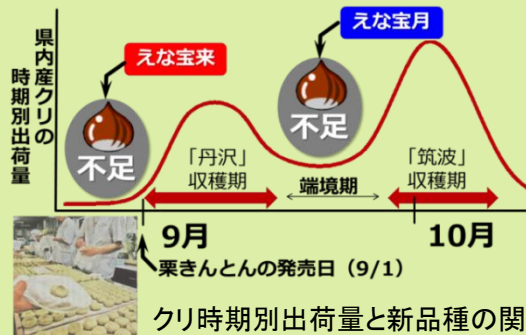


育成の背景

* 主用途である和菓子「栗きんとん」の販売開始にあわせ、8月下旬から収穫できる極早生品種が求められていた。

* 早生品種「丹沢」と中生品種「筑波」の間に収穫でき、従来の補完品種「国見」よりも加工に適する品種が求められていた。

→これらのニーズに応えられる、高品質で多収性の岐阜県オリジナル品種を育成した。



えな宝来



【来歴】 胞衣×丹沢 (H14人工交配)
【収穫期】 8/20～9/5 (H25～29平均)
＜H28. 3品種登録 第24746号＞

えな宝月



【来歴】 筑波の実生 (H9自然交配)
【収穫期】 9/7～9/23 (H25～29平均)
＜H28. 3品種登録 第24747号＞

特徴

- ・「丹沢」より早い8月下旬から収穫できる極早生
- ・収量性良く、極早生では果実大きめで双子少ない
- ・ホクホク感良く、栗きんとん加工に向く
- ・加熱時の渋皮剥皮性良い



渋皮が剥ける様子

特徴

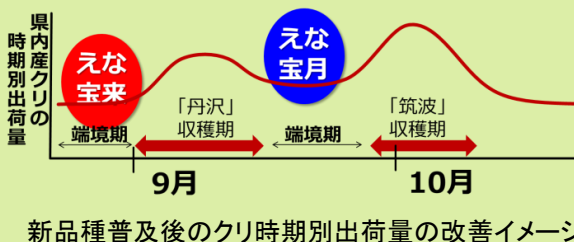
- ・「丹沢」と「筑波」間の9月中旬に収穫できる早生
- ・収量性良く、不良が少ない
- ・黄色で、ホクホク感非常に良く、栗きんとん加工に非常に向く



栗きんとん試作品

普及見込みと導入効果

1. H26～29で3,200本(8ha相当)植栽済み
→将来的に10,000本(25ha相当)植栽見込み
2. 両品種の普及
→出荷端境期の解消で安定供給と収穫労力分散
3. 加熱すると渋皮が剥ける「えな宝来」
→焼き栗用途として利用可



岐阜県中山間農業研究所 中津川支所

〒508-0203 岐阜県中津川市福岡1821-175
Tel (0573) 72-2711 Fax (0573) 72-3910

岐阜県中山間農業研究所

検索